

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194100368		
法人名	日成工業株式会社		
事業所名	小規模多機能つどいの郷 八重桜		
所在地	北海道釧路市鶴野東3丁目25-6		
自己評価作成日	平成27年2月8日	評価結果市町村受理日	平成27年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 調理師免許保持者、また料理が得意な介護職員による利用者様への食事の提供。 重度の方でも対応可能な、スロープ浴槽(湿原の湯)での入浴の提供。 介護職員による、利用者様・ご家族様に対する丁寧な対応。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_021_kani=true&JigyosyoCd=0194100368-00&PrefCd=01&VersionCd=021
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成27年3月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>閑静な住宅街の一角にある平屋造りで開設から1年が経過するこの事業所は、小規模多機能の機能である「通い」「訪問」「泊り」を柔軟に組み合わせ、利用者のニーズに合わせたサービスを提供して本人、家族が安心して生活できるよう支援しています。事業所内は広くゆったりとした共用空間で掘り炬燵の量のスペースが確保され、重度化した利用者も車いすですムーズに利用できる大きさのスロープ浴槽が浴室に完備されています。管理者及び職員は「笑顔・思いやり・優しさ・温かさ・傾聴・奉仕の精神を大切にします。」を事業所の理念として、一丸となってケアの実践に取り組んでいます。また、介護の未経験者が多い為、職員を育てる取り組みに力を入れており、各職員に対して、ケアや業務に対する目標を持ち、職業意識の向上を図り、資格取得への支援や毎月事業所内での勉強会や研修会の開催や外部への研修会への参加も積極的に推進して職員のスキルアップに取り組んでいます。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者並びに職員間での理念・情報の共有はしっかりできているが、まだまだ経験不足の為か、実践につながらない面もある。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の「笑顔・思いやり・優しさ・温かさ・傾聴・奉仕の精神を大切にします。」を事業所の理念として、職員会議で話し合い、共有して実践につなげるよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や地域活動の中で、町内会の催しに積極的に参加し徐々に交流を深めている。	地域との関わりを大切にしており、事業所内に地域住民との交流ルームを確保している。また、町内会の清掃活動や総会等の活動にも参加して地域の一員として交流している。	開設から一年に満たない為、地域と交流する機会が不足しているが、今後は、事業所で開催する行事にも案内や参加を呼び掛けるよう検討しているので、その実践に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の業務内容が一部の住民に知れ渡っていない事もある為、今後は更に活動の場を拡げ、地域の方々へ支援していく。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所・地域包括・町内会・利用者様のご家族様と連携を強化し実施している。出席者からの意見・疑問やサービス状況の報告も、しっかりと話し合いサービスの向上につなげている。	運営推進会議は定期的開催しており、事業所内の取り組みや利用状況や活動状況の報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今後は、運営推進会議で地域に向けた事業所の役割や行事への参加協力等の連携についても話し合い、年6回定期的に開催すること検討しているので、その実践に期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告・ヒヤリハット、日々の運営に関しての疑問点等の問題も、日頃から市の福祉課の方々と連絡・相談を密に実施している。	市の担当者や包括支援センター職員とは運営推進会議の参加や日常業務を通じて不明な点があれば相談しながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議等の開催により、様々なマニュアルに関して話し合う機会を設けているが、大まかな「身体拘束」という事に対しては理解しているものの、細部にわたっては浸透していない為、今後は更に強化していく。	身体拘束について、毎月の職員会議で「身体拘束廃止マニュアル」を基本に普段のケアの中で拘束にあたる点が無いかを話し合う機会を設けている。また、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関しては、言葉使い・態度を含め細心の注意を払うように指導している。職員間でもお互いに注意できる環境を整備している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業・成年後見制度や、それ以外の様々な制度について学ぶ機会がほとんどなかった為、今後は制度についての勉強会や研修の機会を設けていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等に関しては、様々な条項に対して丁寧な説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様のご家族様から受ける様々な相談等、状況に応じ市に相談したりしており、反映させている面も一部ある。	利用者や家族の来訪時や連絡ノートで意見交換し、毎月のモニタリングで気軽に相談できるように取り組んでいる。また、出された意見や要望は速やかに職員間で話し合い、それらを運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の業務の中で、職員からの提案を積極的に受け、管理側からの一方的な押し付けはしない事を徹底している。提案された意見に関しては職員全員で話し合う場を設けている。	管理者は、申し送りや日常業務、毎月の職員会議で職員からの意見や要望、提案を聞く機会を設け、出された意見は話し合い、運営に反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員に対し、介護に関する事と、介護以外の業務に対する目標を設定してもらい、意識の向上を図っている。また、様々な資格やスキルアップの為の研修への参加も受け付けており、職員の積極性も見られる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアアップ研修や、その他の研修に関して職員個々の能力や不足部分を考慮し、本人と話し合い参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	なかなか同業者間での交流する機会がないため、今後は積極的に活動していきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様に対し担当職員を2名付け、積極的に関わってもらうことにより、様々な面での要望等を聞き、利用者様との信頼関係を築く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前・利用中を含め、管理者・ケアマネを中心に様々な要望を聞き、関係性を深めている。また、サービスにも反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の担当職員を中心に、利用者様の求めていることを汲み上げ、可能な範囲のなかで支援に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の経験不足・管理者の指導不足からか、まだまだ意識が足りない部分がある為、今後は関係性を深めていけるよう努力していく。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	八重桜の職員の性質からか、家族の立場になって考えていく優しさが見受けられるが、全ての職員がそうではないため、更に教育していきたい。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の身体状況等の問題から、なかなか活動の幅を広げる事は難しい状況だが、季節と身体状況で判断し支援していきたい。	利用者の思い出話や馴染みの場所を忘れなような会話を心掛け、本人のこれまでの交流を大切にし、家族の協力を得ながら出かけられるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	様々な症状の利用者様がいる中で、その方に合った関わり方、また、孤立しないような環境を整備できていると感じるが、まだムラがある場面もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現段階でサービス利用終了の方は、死亡による方のみとなっている。今後は、そのような利用者様が出た場合は、状況に応じたフォローをしていきたい。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様個々の想いを第一に尊重しているが、その方の身体状況・周囲の環境を十分判断し検討している。今後も想いと状況のバランスを考慮し運営していきたい。	日常生活での表情や会話、連絡ノートでの家族との意見交換、毎月のモニタリングの訪問で情報を収集し、思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、本人本位に過ごせるよう検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴等を十分把握し、可能な限りケアにつなげているが、更に情報を収集し向上させていきたい。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況を十分に把握し、その上で可能な限り判断しているが、なかなか利用者様に伝わっていない部分もあるのが現状である為、更に信頼関係を深めていきたい。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員各自が、それぞれの担当の利用者様の状況をしっかり把握し、意見交換を実施している。しかし、まだ積極的に意見できない職員もいるため、素直な意見・アイデアを出せる環境を整備していきたい。	本人がより良く暮らすために本人、家族の希望や意向を取り入れ、毎月の職員会議でのカンファレンスを通じて職員の意見を反映させた介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ヒヤリハットは悪い事と決めつけず、事故を防止するための気付きという事を伝え、様々な情報を共有し、活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	従業員一同、まだまだ頭が固い部分が多々ある。今後は様々な面で柔軟な発想で取り組んでいきたい。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一部の利用者様に対しては、しっかりと安全で豊かな支援ができていていると感じるが、一方の利用者様に関しては、お互いに共有できていない部分もある。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の受診・身体状況を把握したうえで、可能な限りかかりつけ医と連携を図っている。しかし、急を要する場合は、地域の医院を受診する取り組みをし、ご家族様・医師との連携も取れている。	本人や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医に受診している。また、事業所の看護師や協力医療機関との連携で適切な医療を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を中心に、利用者様の健康状態を把握し情報を共有できている。また、受診の場合等は、全職員が対応できるような環境を整備している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院等の場合は、ケアマネ・看護師を中心に医療機関と連携し、情報を共有・交換できている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の段階から、ご家族様に対し様々なリスクや場面を想定し、小規模として対応できる事・できない事を明らかにし、話し合いをしている。しかし、全ての利用者様のご家族様と話し合っていない部分もあるので、改善していきたい。	重度化した場合や終末期のあり方について、契約の段階から本人や家族と話し合いを行い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を共有している。また、看護師、職員が連携する体制になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時や急変時に対応に関しては、しっかりとマニュアル化しているが、職員各自に冷静さが求められるので、救急の講習を受講する予定。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震・災害に関するマニュアルも作成し、職員に配布済み。定期的な避難・防火訓練も実施中。	消防署の協力を得ながら年2回、緊急時に職員全員が速やかに対応できるよう実技を伴う避難訓練や防火訓練を実施している。また、防災や地震や津波等の自然災害マニュアルや緊急連絡網も整備している。	今後は、地域住民も参加した避難訓練や災害時の協力関係を築けるよう運営推進会議や日頃の交流の中で広報活動を行うことを検討しているので、その実践に期待します。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人の人格を尊重し、自尊心を損ねないような声掛けを心掛けているものの、その時々によって不適切な声掛けがあったりする。	利用者、一人ひとりの尊厳と誇りを損ねないような言葉かけや対応に努めている。また、プライバシーや羞恥心の配慮にも十分に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様本人の希望を第一に考えているが、その時の天候・身体状況・受け入れ体制も(家族)考慮し、その上で自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には、利用者様のペースに合わせているが、身体状況を考慮し判断している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出支援・施設内の催し等がある場合には、利用者様の希望に沿い、化粧や衣類のおしゃれ支援を実施。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては一番のアピールポイントであり、栄養面・メニューで充実していると感じる。利用者様と一緒に作ったり、洗物や茶碗拭きに関しても、毎日実施。	「通い」の食事について調理職員が利用者の好みや体調、栄養面に配慮して提供しており、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に調理や食事の準備、配膳等を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理者・看護師を中心に水分量の適正摂取を促しているものの、なかなか摂取できていないのが実情である。食事に関してはバランスが取れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア・清潔保持に関しては、しっかりと管理できている。また、ご本人の希望に沿った支援もできている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄方法・習慣・身体状況を十分に考慮し実施。オムツ使用者でも脱オムツに向けて、職員一同で話し合い計画を立てている。しかし、現状で排泄パターンが全て把握できていない部分もある。	一人ひとりの力や習慣、排泄チェック表で排泄パターン把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けて取り組んでいる。また、全職員で話し合い、おむつ外しに向けて計画を立て取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各利用者様の排便状況を把握し、食事面に関しては十分に対応できている。また、ご家族様との連絡も密にできており、定期的な排便につながっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴については、スロープ浴槽を活用し実施。基本的に入浴日は設定しているものの、希望があれば都度対応している。	「通い」や「泊まり」の利用者一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて入浴支援をしている。また、浴室は3~4人程度が一緒に入れる大きさと重度化した利用者も車いすで入れるスロープ浴槽が完備された浴室になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を第一には考えているが、身体状況にも重点を置き対応。独語や寝言がある利用者様の部屋の近くにおいて安眠できない場合は、部屋の移動も検討している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者・看護師を中心に適切な管理をしている。また内服薬のセットに関しては、全スタッフが出来るように環境整備をしているが、担当スタッフの能力に応じ適材適所を心掛け事故防止に繋げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の希望に沿った支援を心掛けているが、限られた利用者様にしかできていないのが現状である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	身体状況・季節によって判断しているが、概ね支援できていると感じる。	「通い」「泊り」の利用者には本人の希望や体調に合わせて天気の良い日は大型店舗への買い物や外気浴等戸外に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様との協力により、個人のお小遣いを預かり、本人の希望に沿った商品の購入等を実施している。しかし、金銭的に厳しい利用者様もいるため、その場合は適切な購入なアドバイスをしているが、理解を得られていないのも実情である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に沿った連絡手段でのサポートは実施できている。しかし、連絡される側の負担になりすぎないように、バランスを取っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	現在のところ、共有スペース・空間に関しては十分に環境整備できている。利用者様が増えた場合も、現状を維持していきたいと考える。	室内は広くゆったりとしており、畳のスペースが確保され適切な温度や湿度が保たれており、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、壁には季節毎の飾り付けを行い、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の意見を尊重し、好きな場所での活動を工夫して行っているが、食事の際には一定の工夫をしなければ不穏になってしまう利用者様もいるため、席の配置等は職員側で考えている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人や家族様と話し合い、アルバム等の想いでの物品を持参していただいている。また、個人の嗜好に合った趣味活動に使用できるものに関して、危険物ではない限り個人で管理していただいている。	泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、アルバム等の思い出の物品や使い慣れたもの、好みのものを持参してもらい、本人が居心地よく過ごせるように支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様それぞれの身体状況・ADLを考慮し実施。できない事でも少しずつできるように工夫支援している。		

目標達成計画

作成日：平成 27年 3月 16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	職員会議の開催が少ない。管理者・ケアマネ・介護職員の間での情報共有を、もっと密にしていきたい。	最低月に一度のペースで会議を実施(業務内容・担当利用者・リスクマネジメント・新規利用者の事等)	介護員が、それぞれの担当利用者への取り組みを数点考え、実施できるように計画する。	12ヶ月
2	13	若い職員・無資格の職員はもちろん、有資格者であっても、薬の事や小規模多機能の性質について、解らない事が多い。	勉強会のようなものがあつたら「もっと知りたい!」と思うようになるのではないだろうか。	施設外研修会等の参加と、施設内での研修会の実施。	12ヶ月
3	13	職員の医療面を含めた介護知識や技術の向上	医療面や介護技術等の勉強会まの開催や全スタッフ同じレベルになれる。臨機応変な対応。	介護技術の講習会や認知症や介護に対する勉強会等の実施。(電話を掛けたい、腰痛、様々な訴えに対しての工夫)時間や決まりにとらわれず、状況にあつた対応。	12ヶ月
4	23	利用者、家族の想いに沿ったケア	安心して預けられる環境。第3者から見る施設内の状況。	馴染みのある関係の中でも、尊厳ある対応。声掛けの工夫や配慮。職員間の声掛けの工夫。	12ヶ月
5	36	プライバシーの保護。	家族・本人の立場になって考える。	排泄確認や更衣時の保護。(カーテンを閉めるなど)	12ヶ月

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。